令和５年度　　１月号

道場小だより

あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願い申し上げます。

校長　大前和隆

「一年の計は元日にあり」

よく耳にする言葉ですが、この言葉はそもそも「月令広義」という中国の書物に由来するといわれています。「一日の計は朝にあり」「一年の計は春にあり」「一生の計は勤にあり」「一家の計は身にあり」と記され、これら四つの計を「四計」というそうです。この四つの計は良き人生の設計に欠かせない大切な計画とされています。初めに計画を立てることで日々の充実度が決まり、勤勉に働くことで一生が決まり、健康維持によって一家の行く末が決まるという意味があるとされています。昨年はインフルエンザの猛威にあい、本校でも学級閉鎖が相次ぎました。「健康を維持すること」の大切さをこの「四計」からも感じます。

かの有名な戦国武将「毛利元就」も「一年の計は春にあり」「一月の計は朔にあり」「一日の計は鶏鳴にあり」と「一年、一月、一日それぞれの最初のときこそが計画をたてるべきときである」ということを言っています。何事も最初が肝心であるという戒めを意味していると言われています。また、「一生の計は少壮の時にあり」という言葉も同じような意味を持つ言葉だと言われています。「少壮」とは若くて意気盛んな時期のことで、青年期に生涯でなすべきことを考えておくべきであるという意味があるそうです。

大リーグで注目を浴びている大谷翔平選手は高校生の時に具体的な夢を描き、そのために必要なことや努力すべきことを明確にして取り組んできました。マンダラチャートという目標達成シートは、メディアでも数多く紹介されました。他の著名なスポーツ選手（例えばイチロー選手や本田圭佑選手）も、子供の頃に抱いた夢を作文に書き、その通りに夢を実現させていっています。最近活躍が目覚ましいバスケットボール選手の中には「スラムダンク」という漫画の世界にあこがれをもち続け、現在に至った選手もいるそうです。

社会の ICT 化が加速度的に進み、AI が目覚ましく進化しました。今後、社会の仕組みも仕事の中身も大きく変わると言われている激動の時代です。しかし、こんな時代だからこそしっかりと自分の将来の夢を思い描き、そのために必要な生きる力を身につけていくことが大切なのだと思います。身の回りで起こっているすべてのことをチャンスととらえ、前向きに取り組んでいく力を身に着けたいものです。

２０２４年は辰年です。辰年は最も幸運で最も繁栄し、前例のない機会に満ちていると言われています。まさに激動の時代の中で我々が想像もしない大きなチャンスが巡ってくるかもしれません。

「子どもにはすべての最も大きな可能性がある。トルストイ（ロシアの小説家）」

「希望が人間をつくる。大いなる希望を持て。テニソン（イギリスの詩人）」

本校の教育プランにもあるように「未来に活躍」する子供たちの姿を思い描きながら、道場小学校職員一同、身の引き締まる思いで、改めてこの一年をスタートさせてまいります。今後ともご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。